

科目区分： 専門教育科目 音楽教育  
授業科目名： 器楽アンサンブル（2）

## 音楽を通じた社会貢献と教育学部における授業での学び

### － 大学・地域・国内を超えて －

音楽教育講座：市川克明

#### 1. 授業の基本情報

担当教員名：市川克明（音楽）  
登録学生数：35名

本授業は、管打楽器のアンサンブル、吹奏楽の演奏を中心にしており、履修生はそれぞれが演奏する楽器を選択し練習し、授業内で合奏を行う。ただ単に、楽曲を演奏するだけでなく、将来教員になった際、吹奏楽その他での指導の実践にも役立つ内容である。

前期は別科目「指揮法」でも同じ楽曲を取り扱い、実際に指揮活動を行い、今年度後期は、モーツァルトの2台のための協奏曲を取り上げ、ピアノの独奏者とともに音楽を作りあげた。さらに、後期は小編成のアンサンブルを実施しており、それぞれのグループが合わせ練習を行い、最終授業日に発表することを例年行っており、今年度も5グループに分け実施した。

特に、後期の最初の授業では、ドイツより招聘したプロフェッショナルの音楽家を迎え、演奏の共演、およびファゴットの公開講座を実施、通常見ることのほとんど無い、コントラファゴットやファゴッティエノ（小ファゴット）を間近で見聞きするなど、極めて学術的内容の高い講座となった。

授業内で管楽器を専攻している音楽文化コースの学生有志は、滋賀県、岐阜県、および松山市内で合計4回の演奏会を行い、その中でドイツ人音楽家と共演した。今回の報告では、特にこの地域との密接（必ずしも愛媛県内ではなく、広い意味での地域、すなわち、滋賀県長浜市、岐阜県大垣市）な関係を持ち、かつ愛媛大学卒業生と連携したプロジェクトについて詳細に報告する。これは、今後の音楽を通じた地域連携の一指針となるものであると言える。

#### 2. 学内外での活動の概要

2018年10月1日より9日までの予定でドイツ人プロフェッショナル音楽家2名を日本に招聘、愛媛大学学生、卒業生、私、そして市内在住のプロフェッショナル演奏家とともに、滋賀県、岐阜県、愛媛県松山市で4回の演奏会を企画、および器楽アンサンブルの授業内で公開講座を実施、引き続いて授業内で共演した。市内の演奏会では、音楽文化コース在籍のピアノ専攻学生、三味線演奏が可能な学生、および市内在住のプロフェッショナル・アマチュア演奏家も共演し、合計12名による演奏会となった。

##### 2.1 滋賀県長浜市 滋賀文教短期大学他

現在、2017年度愛媛大学大学院修了のピアノ専攻学生が、講師として滋賀県内の短期大学に在職し、若手女性研究基金の助成金による研究活動を行っている。その中で、ドイツよりフルート奏者、ファゴット奏者を招聘し、日独親善交流企画を実施した。

長浜市立杉野小学校では、全校生徒約30名の演奏を披露、その際、器楽アンサンブル履修生である教育学部音楽文化コースの学生（フルート・クラリネット）が共演した。私はホルン、松山市内在住のクラリネット奏者も共演し、ピアノ、フルート2名、クラリネット2名、ホルン1名、ファゴット1名によるアンサンブルを中心に、同短期大学の学生が共演する形で演奏会を行った。また、同地の伝統楽器である、「葦笛」の演奏グループとも共演し、この様子は、現地の新聞でも取り上げられ、長浜市役所を表敬訪問した際には市長よりお礼の言葉をいただいた。

また同短期大学でも在学学生を対象に演奏会を実施、その際にも10名の同短期大学生が共演した。

さらに、近隣の幼稚園を訪問し、小編成のアンサンブルを行った。

このように、県の垣根を越えた、愛媛大学出身の卒業生を中心にし、在學生、松山市内在住の演奏家、および、同世代の幼児教育を専攻する短期大学学生との共演は、非常に有意義なものであり、今後の地域と連携した音楽活動の一つのあり方であると言える。

## 2.2 岐阜県本巣市 岐阜第一高等学校

岐阜県内の私立高等学校での訪問演奏を実施した。愛媛からの演奏家、ドイツからの演奏家、および上記のピアノ専攻の卒業生に加え、高等学校生徒らによる合唱とも共演、音楽を通じた日独の文化交流はもとより、次世代を担う生徒たちとの音楽作りは教育学部在學生に取り貴重な体験となった。

事前に、同卒業生による出張授業を行ってもらい、共演する合唱曲の指導を行い、また、管楽器の予備知識を与えるなど、通り一遍でない非常に有益な音楽会となった。

当日の演奏会では、合唱の共演だけではなく、生徒代表には指揮を体験してもらうなど、より音楽を身近に感じてもらえるような企画を数多く準備した。

## 2.3 松山市内での演奏会

松山市内の音楽ホールで日独親善友好演奏会を実施した。例年取り組んでいる管楽器・音楽学研究室による演奏会であるが、音楽教育講座卒業生にとっては数少ない演奏発表の場であり、彼らにそのような機会を提供することは、地域に根差す大学としての重要な役割であると考えている。さらに、在學生にとり、音楽という共通の目的を持つ卒業生との共演は、得難い刺激を得ることになり、この取り組みも5年目を迎え非常に充実したものとなった。特に、今回はドイツからの演奏家に加え、音楽文化コース所属の管楽器専攻学生、卒業生、ピアノ専攻学生、および三味線を専門としている学生に加え、市内の演奏家も共演し、通常演奏しないような楽曲を多数演奏し、これまでにない大きな取組となった。

特に、ヘンデルの2本のフルートのためのトリオソナタでは、4回生の器楽アンサンブル履修生がドイツ人と共演、その際ピアノ専攻学生はチェンバロを担当、加えてドイツ人ファゴット奏者が共演する形で演奏した。このように、本場の音楽を本物の編成で行うことは、地方においては極めて困難であり、実際、来客者より賞賛された演奏であった。

さらに、ドイツ人ファゴット奏者が、普段耳にすることのないコントラファゴット（大きなファゴット）を担当し、学生が担当するチェンバロも共演、4本のファゴットを独奏とするバロックの楽

2018.10.4(日) 滋賀新聞

曲の演奏など、日本国内でも極めて稀な演奏となった。

メインの楽曲は、ハイドンの管楽器のための大編成のアンサンブルで、この編成のために私自身が編曲を行った。ここでは、上記の三味線を除くすべての演奏者が共演した。

このように、教育学部では考えられないような、非常に充実した専門的な演奏会となり、このことは来場した市内の音楽愛好家に大きな刺激を与えた。実際、会場は満席に近く、関心の高さがうかがえた。

(演奏会プログラムは最終ページ参照のこと)

## 2.4 器楽アンサンブルでのファゴット講座

ファゴットという普段あまり身近に聞くことのできない楽器について、ドイツ人ファゴット奏者により演奏と解説をしてもらい、レクチャーコンサートであった。前半は、私自身が通訳しファゴットについて、実演付きのレクチャーを行い、その際には、大きなコントラファゴット、小さなファゴッティエノについても触れられ、履修生にとっては非常に有益な機会となった。

後半は、それぞれの楽器を用いた演奏で、その際には、チェンバロやピアノを学生が担当し、ドイツ人ファゴット奏者と共演した。

講座に引き続き、授業では、ドイツ人演奏家2名も練習に加わり、様々な吹奏楽曲を演奏した。

短い時間ではあったが、音楽を通じた小さな文化交流となった。

学生たちのほとんどはヨーロッパ音楽を専門としており、このように音楽の本場であるドイツよりプロフェッショナル奏者を迎えての講座、さらに共演を行えたことは、地方ではなかなか味わうことのできない専門的な音楽に触れる極めて貴重な機会であると言える。

## 3. 履修生アンケートより

★ 学内だけでなく、他県での演奏活動に参加させていただき、音楽を通して様々な方々との交流があり、とても充実した1年間になりました。また、今回はドイツからの演奏家の方との活動ということもあり、新鮮な環境の中での演奏はとても貴重な体験でした。

このような場を設けて下さり、ありがとうございました。

★滋賀県での演奏会では、幼稚園から大学まで様々な学校を巡り、多くの学生と関わる機会となりました。松山市では、普段あまり出来ない編成での曲を演奏することで、実り多いものとなりました。これらの演奏会では松山の演奏家やドイツ人演奏家の2人と共演し、異文化理解とコミュニケーション、また、プロと共演することで自らの演奏能力の向上にもなったと感じています。

★ 普段目にする事のないコントラファゴットに接し、ファゴットに大きな興味を持ちました。

★ アンサンブルの楽しさを改めて実感しました。

★素晴らしい音色に感激しました。

★バロック音楽はあまり生で聴く機会がありませんが、チェンバロを含む小編成のバロック室内楽の魅力を感じました。

## 4. 「地域社会を核とした教育と研究のつながり」について

既述の通り、音楽を通じた学生とドイツ人演奏家との親善交流、また、演奏会を通じての地域の愛好家との共演、および聴取者への音楽の提供は、学生にとってはまたとない機会である。特に、地方ではこのような機会はほとんどなく、その意味

Fagott & Kontrafagott  
ドイツからファゴット奏者を招いて

ファゴット・コントラファゴット  
レクチャー&ミニコンサート

2018年10月5日(金) 14時30分~15時15分  
教育学部2号館5階大演習室

ローター・パルマー Lothar Palmer (ファゴット・コントラファゴット)

1963年北ドイツのメルデンハムに生まれる。15才からクラリネットを始め、17才でファゴットに転向。同時に作曲をH.W.エルトマン氏に学ぶ。1983年アビトゥア(大学入学資格)取得。同年、長谷でハンブルク空軍音楽隊第4隊に配属。ハンブルク音楽大学でファゴットをディーター・ユルト教授に学ぶ。演奏家プロムを取得し卒業。同大学で、E.ゴッター二氏の室内楽マスタークラスを受講。1990年から2002年までハンブルク・ノイエ・フォーラム・シロ・ファゴット奏者。1996年よりコントラファゴット奏者としてスコッス・フランツ・シューマン、フィル・ムニー・デア・ナフィオーネンのヨーロッパ・ロシア・トルコツアーに参加。1999年から2002年までベルリン・ゴッツムミュージカル劇場で客演奏者を務める。ドイツ各地のオーケストラで演奏する他、「トリオ・アル・ジュスト」メンバー等室内楽奏者としても活躍している。室内楽編成の編成を始める。プレイス・ドラマのための音楽「Dschirw??」。映画音楽「ナルムーン」(2003年)。ポップオーケストラのための編曲「All our Lives」にセラーノ、2001)等の作品がある。2000年よりトルコ古典音楽を学び、ネイ奏者としても演奏活動を行っている。

普段目にする事のないコントラファゴットを近くで見て聴いて楽器を知ろう!

Mail: ichikawa@gms.de  
Tel: 089-927-9448 (応用)

Musica instrumentalis apud scientiam ehimensis

で今回卒業生を通じて実現した日独親善交流企画は、学生たちにとり大きな刺激となった。

また、この演奏会とは別に、毎年、器楽アンサンブル履修生で音楽文化コース専攻の学生が、市内あるいは県内各所でアウトリーチ演奏会活動を実施しており、愛媛大学が地域に根ざす大学として、音楽を通じた還元活動を行っていることは近年徐々に知られるようになってきている。事実、演奏会の前には、問い合わせが数多くあり、期待の高さをうかがわせる。

将来教育者となる学生は、ただ単に自らの演奏能力を高めるだけではなく、今回の一連の演奏会のように、企画・運営、マネージメント、練習、演奏会の実施に向けての活動など、音楽教員として役立つ様々なノウハウを身につけることが重要である。そうした中、今回の大きな企画を通じ、その能力を高められたことは貴重な財産であり、また、愛媛大学で学んだことが将来直接的に役立つ内容であったと言える。

音楽文化コースは今年度で終了であるが、望むべくは、今後の学校教育専攻の学生が、これまでの音楽文化コース専攻の学生同様に、音楽について強い興味を持ち続け、そうした能力を地域に還元する、ということに意義を見出すようにすることである。その意味において、重要な「きっかけ」を与えた企画であった。

## 5. 平成30年度の演奏会・アウトリーチ活動ほか

7月2日	土曜夜市での演奏
7月23日	伊方町大浜地区夏祭りでの演奏
10月2日	長浜市立杉野小学校演奏会
10月3日	滋賀文教短期大学演奏会
10月3日	長浜市内幼稚園での演奏会
10月4日	本巣市岐阜第一高等学校演奏会
10月5日	器楽アンサンブル授業内「ファゴットレクチャーコンサート」
10月8日	レストロ・アルモニコ演奏会
11月22日	愛媛大学附属幼稚園での演奏会
12月25日	松山市内高齢者住宅「ドマーニ」でのクリスマス会での演奏

## 6. 授業の改善点

本授業の大きな問題点は履修生の減少である。音楽文化コースが廃止され、学校教育中等音楽コースの学生は一学年4名で、なおかつ管楽器専攻の学生は少なく、将来的に能力のある履修者を増加

させることはほぼ絶望的である。反面、他学部からの履修学生は増加しており、むしろ管楽器を以前より演奏していたものがほとんどで、実際にはこれらの学生により成り立っているのが現状である。また、松山大学、東雲大学との単位互換により、若干名が履修しており、これらの学生も高等学校まで吹奏楽活動をしていたものばかりで、高い演奏能力を有している。

このように、音楽文化コースが廃止された今、他学部、他大学からの履修生に演奏は頼らざるを得ず、そのことにより本来の音楽専攻の学生で管打楽器を演奏したことがない者がかろうじて「吹奏楽体験」することが可能となっている。教員免許には必要な科目であるため、いかに能力の高い他学部、他大学からの履修生を増やすかが課題である。

また、将来おそらくは吹奏楽部顧問を担当するであろう音楽講座の学生にとり、「理論的」に様々な管打楽器を学ぶことは重要である。自らが演奏する楽器以外にも非常に近くで接することができ、また、情報交換もしやすい状況にある。このことは、通常音楽を専門とした音楽大学では希薄であり、その意味で、教育学部の音楽教育講座の大きなメリットである。そうした有利な点を生かし、理論的に楽器を学ぶ、実際の指揮・指導活動を体験する、可能な限り外部での演奏を行う、この3つの柱を今後の課題としたい。

Musica instrumentalis liquid scientiam Maimensis

# L'ESTRO ARMONICO IV

レストロ・アルモニコ

## ドイツから演奏家を迎えるの

### 日独親善交流演奏会

2018 **10/8** アオノホール (ヤマハ純山店)  
開演 13:00  
月・祝 13:30

L'estro armonico (愛媛大学教育学部音楽講座管楽器・音楽学研究室)  
愛媛日独協会・松山フレイルブク会・一色楽器 (株)・サウンドスクエア  
Tel: 089-927-9448 Mail: ichikawa@gmx.de 担当: 市川

### こあいさつ

皆様、本日は「レストロ・アルモニコ」第4回演奏会にご来場いただきありがとうございます。愛媛大学教育学部音楽講座管楽器・音楽学研究室では、卒業生と教育学部音楽文化コース在学学生を中心に、松山市内在住のプロフェッショナル奏者やアマチュア奏者と共演し、第1回目よりテーマを決めて演奏会を企画してまいりました。

今回は、ドイツから二人の管楽器奏者を迎え、普段あまり演奏する機会のないロック時代の知られざる名曲、ミシェル・コレットの4本のファゴットと通奏低音のための協奏曲二長調「フェニクス」、ゲオルグ・フリードリヒ・ヘンデルの2本のフルートと通奏低音のためのトリオソナタを始め、大編成の木管アンサンブルによる作品、そしてリムスキー・コルサコフのピアノと木管楽器のための五重奏を取り上げました。また、在学生による三味線演奏など多彩なプログラムとなっております。

本日の演奏会は、昨年愛媛大学大学院を修了し現在温習大教習期大学講師である研究室の卒業生、藤山あやか氏が獲得した日本私立学校振興・共済事業団「平成30年度若手・女性奨励金」により実施することができました。ここに深く感謝の意を表します。

木管楽器の、特に18世紀の音楽に焦点を当てた今回の演奏会、柔らかな響きのあけ合う美しい楽曲をお楽しみください。

愛媛大学教育学部准教授  
市川 克明

ハンブルク市庁舎 (撮影: 市川)

### PROGRAM

～プログラム～

ピアノと木管楽器のための五重奏曲 寛口長調より 第1楽章 ニコライ・リムスキー・コルサコフ Nikolai Rimsky-Korsakov (1844-1908)  
Quintet für Flöte, Klarinette, Horn, Fagott und Klavier B-Dur, 1. Satz  
演奏者: 市川克明 (フルート)  
藤山あやか (ピアノ)  
伊藤千佳 (クラリネット)  
市川克明 (ファゴット)

2本のフルートと通奏低音のためのトリオソナタ 主題調 ヴァルター・フリードリヒ・ヘンデル Georg Friedrich Händel (1685-1759)  
Triosonate für zwei Flöten und Generalbass e-Moll HWV 395  
演奏者: 市川克明 (フルート)  
藤山あやか (ピアノ)  
伊藤千佳 (クラリネット)

「リンゴの唄」、「伊予遣す」  
1998年 (作曲)  
1999年 (演奏)

「花は咲く」  
作詞: 菅野よう子 作曲: 市川克明

4本のファゴットと通奏低音のための協奏曲 二長調「フェニクス」 ミカエル・コレット Michael Corrette (1677-1735)  
Concerto pour quatre bassons et continuo ré majeur "Le Phénix"  
演奏者: 市川克明 (ファゴット)  
藤山あやか (ピアノ)  
伊藤千佳 (クラリネット)

ディヴェルティメント「フェルトパルティ」寛口長調 ヨーゼフ・ハイドン Joseph Haydn (1732-1809)  
Divertimento (Feldpartei) B-Dur Hob. I/46  
演奏者: 市川克明 (フルート)  
藤山あやか (ピアノ)  
伊藤千佳 (クラリネット)

### L'ESTRO ARMONICO IV

ドイツから演奏家を迎えるの日独親善交流演奏会

**ローター・パルマー (ファゴット)**  
Lutz Palmer (ファゴット)  
1963年ドイツのノルデンハムに生まれ、15歳でファゴットを始める。17歳でアマゴットに転向。同年にドイツのエストライムに入塾し、1983年にドイツ (大学入学資格) 取得。同年、ドイツのフランクフルト音楽学校管楽器4年次卒業。ハンブルク・フェルトパルティ・アカデミーでフェルトパルティに専攻し、演奏家ディプロマを修了。1990年から2002年までハンブルク・フェルトパルティ管楽器ディプロマ卒業。1996年からハンブルク・フェルトパルティ管楽器ディプロマ卒業。1999年から2002年までベルリン・ホグムム・ミュージックアカデミーで演奏家を務める。ドイツ各地のオーケストラで演奏する。レトリカル・アンサンブル / メンジャー専攻の演奏家としても活躍している。管楽器協会の編成委員、オーストラリアでの指揮者 (2011)、独逸音楽「ホムムーン」(2003年)、ドイツ・オーストラリアの共同編成「Kultur Link」(C-ソナタ) (2001) 等の活動がある。2000年よりトルゴ五重奏を率い、ドイツでも演奏活動を行っている。

**エルク・アンダーセン**  
Eike Anders (フルート)  
フルート奏者、ノルウェースター音楽学校講師、アンデルセン・フルートアカデミー、ハンブルク・フェルトパルティ・フルート・コンクェンタイン所属で演奏活動中。フルートを専攻から学生、成年まで演奏活動を行っている。木管五重奏を中心に、管楽器協会の活動も実施している。

**藤山 あやか (ピアノ)**  
愛媛大学教育学部芸術文化・現代音楽文化コース卒業。前大塚短期大学教育学部音楽教育専攻 (ピアノ) を修了。2014年、井上真子、藤山和子とのトリオ「トリオ」を結成し、演奏活動中。そのほか、管楽器の演奏活動にも参加。近年、多くの演奏会に出演。毎年、ドイツのフランクフルト・フェルトパルティ・アカデミーにてフェルトパルティに専攻し、演奏家ディプロマを修了。ドイツ各地のオーケストラで演奏する。レトリカル・アンサンブル / メンジャー専攻の演奏家としても活躍している。管楽器協会の編成委員、オーストラリアでの指揮者 (2011)、独逸音楽「ホムムーン」(2003年)、ドイツ・オーストラリアの共同編成「Kultur Link」(C-ソナタ) (2001) 等の活動がある。2000年よりトルゴ五重奏を率い、ドイツでも演奏活動を行っている。

**伊藤 千佳 (クラリネット)**  
13歳よりクラリネットを始める。岡山県立広島高等学校音楽科、愛媛県立大学音楽学部音楽科卒業。ドイツのフランクフルト・フェルトパルティ・フルート・コンクェンタインに在籍。ドイツで演奏活動中。近年、多くの演奏会に出演。毎年、ドイツのフランクフルト・フェルトパルティ・アカデミーにてフェルトパルティに専攻し、演奏家ディプロマを修了。ドイツ各地のオーケストラで演奏する。レトリカル・アンサンブル / メンジャー専攻の演奏家としても活躍している。管楽器協会の編成委員、オーストラリアでの指揮者 (2011)、独逸音楽「ホムムーン」(2003年)、ドイツ・オーストラリアの共同編成「Kultur Link」(C-ソナタ) (2001) 等の活動がある。2000年よりトルゴ五重奏を率い、ドイツでも演奏活動を行っている。

フルート: Eike Anders (フルート奏者) 市川 克明 (愛媛大学教育学部4年次)  
クラリネット: 伊藤千佳 (クラリネット奏者) 藤山 和子 (愛媛大学教育学部2年次)  
ファゴット: Lutz Palmer (ファゴット奏者) 市川 克明 (愛媛大学教育学部2年次)  
ピアノ: 藤山あやか (ピアノ奏者) 藤山 和子 (愛媛大学教育学部2年次)  
クラリネット: 伊藤千佳 (クラリネット奏者) 藤山 和子 (愛媛大学教育学部2年次)  
三味線: 市川 克明 (愛媛大学教育学部1年次) 門田 友 (愛媛)

～L'ESTRO ARMONICO (調和の靈感)～  
愛媛大学教育学部音楽講座管楽器・音楽学研究室では、ただ音楽を演奏するのではなく、知的好奇心を持って音楽に取り組み、Scientia ehimensis (愛媛の智) をモットーに、学問と実践の融合を目指すその成果として演奏会を開催しています。卒業生・在学生に加え、近隣で活躍するプロフェッショナル演奏家、アマチュア演奏家とともに、普段演奏することのできないような知られざる名曲を演奏してゆこうと考えています。

2018年10月8日 (月) 開催の演奏会プログラム



演奏会出演者